

岡山県神社庁  
 報 廳

発行所  
 岡山県神社庁  
 教化委員会 広報部会  
 〒703-8372 岡山市中区奥市3-22  
 TEL 086-270-2122  
 FAX 086-270-2123  
 IP電話 050-3604-4369  
<http://www.okayama-jincho.or.jp/>

  
 祝祭日には国旗  
 を掲げましょう



窪八幡宮 (岡山市東区久保)

謹賀新年

皇紀二六七四年甲午歲

岡山県神社庁

庁長 河本貞紀  
 副庁長 牧博嗣

理事 藤山知之進  
 佐々木講治

〃 戸部廣徳

〃 岡部典雄

〃 伏見正彦

〃 日野正彦

〃 太田浩司

〃 市村正行

〃 三垣一行

〃 若林一利

〃 近藤有生

〃 監事 西辻嘉昭  
 長江俊忠

協議員会議長

岡山県神社総代会

【事務局】

会長 中島博

参事 瀧本文典

主事 岡本好範

主事補 河本晴彦  
 録事 清水美代子  
 嘱託 見垣佳子

# 時の節目に想うこと

## 【年頭のご挨拶】



岡山県神社庁

庁長 河本 貞紀

新春を迎え皇室の弥栄と国家の隆昌、県内皆様方のご多幸をお祈りし新年のお慶びを申し上げます。本年も庁務にご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

昨年、第六十二回神宮式年遷宮の遷御の儀が、皇大神宮で十月二日、豊受大神宮で十月五日に厳かに執り行われ、祭儀には、黒田清子臨時神宮祭主をはじめ鷹司尚武神宮大宮司以下百数十人の祭員らのご奉仕。皇室を代表され秋篠宮殿下をご参列されました。天皇陛下には遷御の出御時刻にあわせて皇居内の神嘉殿南庭に出御遊ばされ「遙拝の儀」をおこなわせられました。

遷御翌日の奉幣の儀では、天皇陛下からの幣帛が池田厚子神宮祭主により奉られました。また、十日に荒祭宮、

十三日に多賀宮の別宮で遷御の儀が執り行われ、まさに厳粛で活気に満ちた盛儀が続きました。

一方、(財)伊勢神宮式年遷宮奉賛会(中央)第十七回評議員会・理事会が十一月十三日開催され、募金累計額が目標を上回る二百四十三億円になったことが報告され、同会が十一月三十日に解散し、十二月一日より清算を開始し、翌平成二十六年三月三十一日をもって結了する予定が発表されました。当県本部に於きましても、関係各位のご努力により目標を大きく上回り、同日に解散し奉賛の誠を尽くすことが出来ましたことをお慶び申し上げますと共に厚く御礼申し上げます。

今回の式年遷宮は取り分け若い世代も含め国民の関心が高く、過去の年間参詣者記録八百八十万人を超え、既に

十一月末時点で、年末には千四百万人に近づくことが予想されています。注目すべき現象です。

次に、長年、ご協議戴きました当神社庁の支部再編もいよいよ昨年七月より運営段階に入りました。当県の将来に備え引き続き宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年十月二十三日、本庁評議員会自由討論で、山口県神社庁の提案で中国五県の宮司対象に昨年実施した「過疎・少子・高齢化に関わる神社運営状況アンケート」の結果の要旨が金長山口県神社庁長より紹介されました。五県の「半数以上が過疎地と認識し、現実に氏子世帯数が五割以上で減少している」しかも少子高齢化が極めて顕著とし、「更に雑祭や共同体(集落)の祭りが減少し、年間の祭礼参拝者数も減っている。ほぼ五県で、ここ十年間の減少傾向は同様である。」と報告されました。

予想はしていましたが地域格差や人口減少は拡大するばかりです。それでも若い世代にごく僅かながら新しい変化が生まれています。例えば若い参詣者が増えたり、祭りに参加したい為に他から移住したり、他者の為の奉仕活動(ボランティア活動等)に積極的に

参加する現象が見られます。

「成長や拡大」の時代が終わり「内的・文化的な発展」が見られる時代に移る兆しかもしれません。いずれにしても風土に根ざした神社に良くも悪くも大きく関わって来るでしょう。

本年が皆様にとりまして穏やかな佳き年でありますよう心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

## 県神社総代会長に 中島氏が就任

九月十八日開催の岡山県神社総代会評議員会において、松田堯前会長の後任として、岡山県経済団体連絡協議会座長、(ナカシマホールディングス株式会社代表取締役会長)中島博氏が就任した。



岡山県神社総代会

会長 中島 博

【臨時協議委員会】

# 議長に長江氏が就任

## 平成 24 年度決算 / 平成 25 年度補正予算を承認

十一月二十日、神社庁講堂において臨時協議委員会が開催された。

開式行事、庁長挨拶に次ぎ、議長の選任が行われ、議長に長江俊忠氏、副議長に春名明氏がそれぞれ選任された。

長江議長・春名副議長が登壇し開会宣言。議事の審議が始まった。

左記四議案が一括議題として上程され、日野正彦財務委員長が登壇し、それぞれの議案について概要を説明した。

○議案第一号『平成二十四年度岡山県神社庁一般会計歳入歳出決算』

○議案第二号『平成二十四年度岡山県神社庁別途会計収支決算』

○議案第三号『平成二十四年度岡山県神社庁事業会計決算』

○議案第四号『岡山県神社庁財産目録』  
続いて監査報告の後、質疑もなく全会一致で可決された。

○議案第五号『平成二十五年度岡山県神社庁一般会計歳入歳出補正予算案』

（質問） 支部再編を行ったにも拘わらず歳出が減少していないのは何故か。

（回答） 各項目で支出削減は行っているが、現在のところ大幅な削減は難しい。平成二十七年の負担金は正までは、変動幅を抑える。

（質問） 経費の削減を図るなら先ず人件費の削減を考えたかどうか。

（回答） 神社庁の業務を最低限のものにするなら良いが、支部再編当初や委員会活動の活発化により業務が増えているので職員の削減は考えていない。

（質問） 繰越金が目減りしているが、次の負担金見直しでどういう形になるのか執行部の見解を示して欲しい。

（回答） 過疎化等は承知しており、今後研究して行く段階である。

（質問） 支部再編に伴う神社庁規則の改正の議案が無いが、既に決定されている事か。

（回答） 前回の定例協議委員会に上程し可決されたが、周知ができていなかったようだ。周知の徹底を図りたい。

等の質疑があったが、二〇一、一三二円を減額する補正予算は可決された。

（質問） 支部再編を行ったにも拘わらず歳出が減少していないのは何故か。

# 少子化やメディア対策について協議

## 【中国地区教化会議】 / 広報部長木山運嗣

平成二十五年度中国地区教化会議が、八月二十九日から三十日まで出雲大社社務所で開催された。

会場となった出雲大社は、今年五月に遷宮を終えたばかりとあって境内や建物は美しく整備され、当日も平日でありながら、バスや電車で全国から沢山の参拝者が訪れていた。

本会議は中国五県から教化担当者が集まり、各県の実情や意見等が交換されるというもので、今回は計十七名の担当者が参集し、各県それぞれの教化活動の報告書が提出された。

協議では次の課題について話し合いがなされた。

(1) 各県の過疎化、少子化に関わる神社運営のアンケート調査の結果報告

(2) 神道教化と観光、メディア対策

(3) 神宮への参宮促進対策

具体例を挙げると、島根県や鳥取県では、県とタイアップして、神社を含めた観光ガイドの作成の報告が為された。

そして岡山県からは、郵便局のタウンメール、インターネット上のブ

ログやホームページの有効活用事例を挙げたが、それに加えて、今後の事業として、中国五県が協力して神社本庁に働きかけ、神宮大麻啓発のテレビCM（全国放映）作成事業の実行を提案した。

これらの報告や提案は、まさに時代の流れに沿った内容であり、今後の展開が注目される。



出雲大社社務所での会議風景

平成 24 年度  
岡山県神社庁  
一般会計歳入歳出決算書  
(平成 24 年 7 月 1 日～平成 25 年 6 月 30 日)

歳入総額 127,398,087 円  
歳出総額 111,599,219 円  
差引残高 15,798,868 円

【歳入の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異 (△)
<b>I 神饌及び幣帛料</b>	<b>870,000</b>	<b>874,400</b>	<b>△ 4,400</b>
1 本庁幣	620,000	616,400	3,600
2 神饌及初穂料	250,000	258,000	△ 8,000
<b>II 財産収入</b>	<b>10,000</b>	<b>6,601</b>	<b>3,399</b>
<b>III 負担金</b>	<b>36,920,000</b>	<b>36,921,720</b>	<b>△ 1,720</b>
1 神社負担金	25,844,000	25,841,530	2,470
2 神職負担金	9,230,000	9,234,170	△ 4,170
3 支部負担金	1,846,000	1,846,020	△ 20
<b>IV 交付金</b>	<b>66,180,000</b>	<b>66,027,620</b>	<b>152,380</b>
1 本庁交付金	1,200,000	988,000	212,000
2 神宮神徳宣揚交付金	64,700,000	64,700,000	0
3 本庁補助金	280,000	339,620	△ 59,620
<b>V 寄付金</b>	<b>3,000,000</b>	<b>2,785,000</b>	<b>215,000</b>
<b>VI 諸収入</b>	<b>3,470,000</b>	<b>2,530,778</b>	<b>939,222</b>
1 表彰金	50,000	50,000	0
2 預金利子	10,000	4,190	5,810
3 申請料・任命料	2,000,000	1,246,000	754,000
4 会費	1,010,000	807,000	203,000
5 雑収入	400,000	423,588	△ 23,588
<b>VII 繰入金</b>	<b>1,250,000</b>	<b>1,250,000</b>	<b>0</b>
<b>当期歳入合計</b>	<b>111,700,000</b>	<b>110,396,119</b>	<b>1,303,881</b>
<b>前期繰越金</b>	<b>16,000,000</b> (17,001,968)	<b>17,001,968</b>	<b>△ 1,001,968</b> (0)
<b>歳入合計</b>	<b>127,700,000</b> (128,701,968)	<b>127,398,087</b>	<b>301,913</b> (1,303,881)

【歳出の部】

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異 (△)
<b>I 幣帛料</b>	<b>2,300,000</b>	<b>2,158,500</b>	<b>141,500</b>
1 本庁幣	2,200,000	2,118,500	81,500
2 本社庁幣	100,000	40,000	60,000
<b>II 神事費</b>	<b>400,000</b>	<b>303,898</b>	<b>96,102</b>
<b>III 事務局費</b>	<b>35,080,000</b> (35,180,000)	<b>30,787,475</b>	<b>4,292,525</b> (4,392,525)
1 表彰並びに儀礼費	1,500,000	1,047,017	452,983
(1) 各種表彰費	500,000	462,330	37,670
(2) 慶弔費	1,000,000	584,687	415,313
2 会議費	300,000	160,212	139,788
3 役員関係費	1,500,000	1,400,000	100,000
(1) 役員報酬	1,280,000	1,280,000	0
(2) 視察研修費	100,000	0	100,000
(3) 地区会議関係費	120,000	120,000	0
4 給料及び福利厚生費	20,510,000 (20,610,000)	19,899,053	610,947 (710,947)
(1) 給料	10,800,000 (10,900,000)	10,896,000	△ 96,000 (4,000)
(2) 諸手当	6,220,000	5,755,858	464,142
(3) 各種保険	3,340,000	3,144,900	195,100
(4) 職員厚生費	150,000	102,295	47,705

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異 (△)
5 庁費	6,270,000	4,691,768	1,578,232
(1) 備品費	300,000	52,080	247,920
(2) 図書印刷費	650,000	361,148	288,852
(3) 消耗品費	1,300,000	953,099	346,901
(4) 水道光熱費	1,200,000	1,178,160	21,840
(5) 通信運搬費	900,000	758,089	141,911
(6) 備入費	1,420,000	1,161,600	258,400
(7) 雑費	500,000	227,592	272,408
6 交際費	1,200,000	824,695	375,305
7 旅費	2,800,000	2,197,290	602,710
8 維持管理費	1,000,000	567,440	432,560
<b>IV 指導奨励費</b>	<b>11,416,000</b> (12,216,000)	<b>10,804,305</b>	<b>611,695</b> (1,441,695)
1 教化事業費	6,225,000	5,662,056	562,941
(1) 教化費	700,000	527,100	172,900
(2) 広報費	1,000,000	979,635	20,365
(3) 事業費	760,000	621,145	138,855
(4) 神宮奉賛費	2,455,000	2,461,961	△ 6,961
(5) 育成費	1,310,000	1,072,218	237,782
2 本社庁研修所費	2,150,000	1,410,741	739,259
(1) 研修費	2,000,000	1,270,741	729,259
(2) 研修奨励費	150,000	140,000	10,000
3 祭祀研究費	1,170,000	1,269,409	△ 99,409
4 各種補助金	1,871,000 (2,671,000)	2,462,096	△ 591,096 (208,904)
(1) 神政連関係費	135,000	135,000	0
(2) 神青協補助金	450,000	450,000	0
(3) 氏青協補助金	90,000	90,000	0
(4) 県教神協補助金	90,000	90,000	0
(5) 女子神職会補助金	162,000	162,000	0
(6) 県敬婦連補助金	117,000	117,000	0
(7) 神楽部補助金	90,000	90,000	0
(8) 作州神楽補助金	27,000	27,000	0
(9) 支部長懇話会補助金	180,000	180,000	0
(10) 神宮大祭派遣補助金	30,000	30,000	0
(11) 教誨師関係費	500,000	291,096	208,904
(12) 支部再編準備補助金	0 (800,000)	800,000	△ 800,000 (0)
<b>V 各種積立金</b>	<b>4,760,000</b>	<b>4,760,000</b>	<b>0</b>
1 職員退職給与積立金	1,100,000	1,100,000	0
2 正副庁長退任慰労金積立金	160,000	160,000	0
3 次期式年遷宮準備金	3,000,000	3,000,000	0
4 災害見舞積立金	500,000	500,000	0
<b>VI 神社関係者大会費</b>	<b>600,000</b>	<b>456,822</b>	<b>143,178</b>
<b>VII 負担金</b>	<b>22,465,450</b>	<b>22,227,680</b>	<b>237,770</b>
1 本庁災害慰謝負担金	60,450	60,450	0
2 本庁負担金	6,045,000	6,045,000	0
3 本庁特別納付金	13,400,000	13,168,640	231,360
4 支部負担金報奨費	2,960,000	2,953,590	6,410
<b>VIII 渉外費</b>	<b>1,300,000</b>	<b>579,802</b>	<b>720,198</b>
1 友好団体関係費	1,100,000	423,702	676,298
2 時局対策費	100,000	73,000	27,000
3 同和対策費	100,000	83,100	16,900
<b>IX 神宮神徳宣揚費交付金</b>	<b>33,800,000</b>	<b>33,800,000</b>	<b>0</b>
<b>X 大麻頒布事業関係費</b>	<b>6,100,000</b>	<b>5,720,737</b>	<b>379,263</b>
1 頒布事務費	700,000	411,073	288,927
2 頒布事業奨励費	5,400,000	5,309,664	90,336
<b>XI 予備費</b>	<b>9,478,550</b> (9,580,518)	<b>0</b>	<b>9,478,550</b> (9,580,518)
<b>当期歳出合計</b>	<b>127,700,000</b> (128,701,968)	<b>111,599,219</b>	<b>16,100,781</b> (17,102,749)
<b>次期繰越金</b>	<b>0</b>	<b>15,798,868</b>	<b>△ 15,798,868</b>
<b>歳出合計</b>	<b>127,700,000</b> (128,701,968)	<b>127,398,087</b>	<b>301,913</b> (1,303,881)

※表中の ( ) 内は補正予算額。

※差異 (△) は、決算額が予算額に比して超過した場合△で表示する。

# 平成25年度岡山県神社庁一般会計歳入歳出補正予算書

(平成25年7月1日～平成26年6月30日)

## 【歳入の部】

科目	補正予算額	既決予算額	増減(△)
Ⅶ諸収入	3,805,000	6,805,000	△3,000,000
4会費	1,350,000	4,350,000	△3,000,000
当期歳入合計	111,335,000	114,335,000	△3,000,000
前期繰越金	15,798,868	13,000,000	2,798,868
歳入合計	127,133,868	127,335,000	△201,132

## 【歳出の部】

科目	補正予算額	既決予算額	増減(△)
Ⅲ事務局費	36,270,000	36,170,000	100,000
4給料及び福利厚生費	20,850,000	20,750,000	100,000
(1)給料	11,000,000	10,900,000	100,000
Ⅳ指導奨励費	11,856,000	15,556,000	△3,700,000
3神社庁研修所費	2,150,000	5,850,000	△3,700,000
3直階講習費	0	3,700,000	△3,700,000
Ⅹ予備費	9,442,418	6,043,550	3,398,868
当期歳出合計	127,133,868	127,335,000	△201,132
歳入合計	127,133,868	127,335,000	△201,132

饗膳所では休息をとる。  
奉拝席は旧御正殿から新御正殿までの参道右脇の森の中に樹木を避けてコンパネの積敷を作り、ブロック毎にパイプ椅子が並べられており、積敷

三名の参列者は饗膳所前テントで受付を済ませ、御正殿側から黄二〇ブロック、赤一〇ブロック、青九ブロックに分けられ、各々指定されたブロックに設置された椅子約三、〇〇〇脚に着席する。

午後三時三十分内宮到着、宇治橋前では参入者に係員が参列又は奉拝証の提示を求め、一般参拝者は参入停止となる。宇治橋を渡り右折するとすぐの参道脇に奉拝者用テントが張られ、事前に送付された特別奉拝証に記された色の受付で氏名を確認し、同色のリボンを胸に付ける。奉拝席は旧

天皇陛下の御治定を受け第六十二回神宮式年遷宮が内宮で十月二日午後八時から、外宮で同月五日午後八時からに、それぞれ決まり、いよいよその日を迎える事となった。

十月二日内宮遷御の儀には当県から岡崎彬奉賛会県本部長、笹井和男奉賛会県副本部長、伏見正前岡山支部長が参列、支部長、神宮評議員等十八名が奉拝の榮に浴し、当日秋晴れの中貸切バスにて伊勢に向かった。



内宮所定の席につく奉拝者

の裏側には二m程下がり仮設トイレが用意される。積敷後方には投光器が設置されると共に広報席が設けられ、奉拝者への指示や遷宮の解説などが行われた。参列席は、外玉垣南御門前、宿衛屋向かいに設置された握舎内の椅子に着席となる。また、延道には雨天の



新御正殿前に設けられた雨儀廊

新御正殿前に設けられた雨儀廊。浄闇の中を松明の明かりが揺らめき道楽の音に導かれながら御は新宮へお渡りになる。漆黒の闇にその神威を感じた三千人

場合を考慮して雨儀廊も備えられている。午後五時四十分、気温二十六度時折ツクツクホウシが鳴く中、式外参列員として素襖姿の工匠数十名が参入。続いて安倍内閣総理大臣、麻生同副総理大臣以下閣僚、皇族、参列者約二八〇名が参入。続いて両御正殿用御鑰唐櫃二台参入。続いて衣冠姿の神社本庁総理、総長、副総長、常務理事、神宮責任役員、崇敬者総代等参入。続いて秋篠宮文仁親王殿下参入。この時奉拝者一同起立、誓折。

午後六時第三鼓を合図に齋館前庭から勅使の御列、次ぎに黒田清子臨時祭主、大宮司、少宮司以下百数十人の衣冠姿の神職が参進。第二鳥居において勅使の御列と祭主、大宮司、少宮司以下の列とが参道の両側に相対して対揖、勅使の修祓。次ぎに御垣内参入に先立つて勅使、勅使随員、祭主、大宮司、少宮司、禰宜がそれぞれ両手に太玉串を執って正宮御垣内に向かい、太玉串を納める。

次ぎに勅使が内院に参入して祭文奏上。次ぎに大宮司、少宮司によつて御正殿の御扉が開かれ、召立が始まる。

延道に御道敷の白布が敷かれ提灯や投光器の明かりが一斉に消された午後八時、秋の虫の音や鳥の囀りを掻き消す如く瑞垣御門にて鶏鳴三声（内宮はカケコー。外宮はカケロー）と共にいよいよ出

の奉拝者が一斉に息を飲む。頭を垂れる者、二拍手で奉拝する者、様々な形で御を迎える。聴て静々と入御を迎え、御装束神宝が殿内に奉納されると同時に俄に強風が梢を渡り振るい落とした枯れ枝が拝した手に乗った。神風が吹き正に御が鎮まつた瞬間である。

奉拝者は一斉に起立二礼二拍手一礼で大御神を拝した。御垣内では祭典が続けられているが、奉拝者はここで静かに退出となる。宇治橋出口には遷御を拝するべく大勢の参拝者が詰め掛けた大変な混雑であった。

前回の遷御の儀では、参列者はモーニング又は羽織袴で椅子席、奉拝者は指定がなく、ゴザの上に正座であったが、今回の遷御の儀では、参列者は略礼服で椅子席、奉拝者も略礼服で椅子席と改められていた。

二十一年に一度の式年遷宮が神宮で二日夜、内宮に続き外宮で五日夜に「遷御の儀」が奉仕され、皇族から秋篠宮様が参列し、約四千人の拝観者が浄闇の中での儀式を見守った。

正殿の造りは内宮よりやや小さく、屋根の上の鯉木は内宮より一本少ない九本。千木の先端の切り方も異なり、外宮新宮に納める神宝や装束は内宮より数が少なく、神職らの祭員もやや規模が小さい。

神体が正殿を出る間際、三度発せられる鶏をまねた鳴き声「鶏鳴」も内宮は「カケコー」だが、外宮は「カケロー」といった違いや、鶏鳴所役の作法の違いがある。全ての明りが消された後、勅使が「出御」と三度告げると、午後八時、神体を運ぶ神職ら百数十人の列が動き出した。

この夜のためだけに設けられた屋根付き回廊の「雨儀廊」の下を西側の新宮に進み遷御が奉仕された。正宮外玉垣御門前の参列員・正宮外玉垣御門前の式外参列員の前を絹垣が進んで新宮に入御された。

今回臨時出仕としての所役は、四日の川原大祓（「仮御樋代」「仮御船代」）や御装束神宝を始め、遷御に奉仕する神宮祭主以下奉仕員を祓う神事）では、

# の外宮遷御の奉仕を

尾針神社禰宜 村岡 宣祐



大御饌の儀で参進する祭主と大宮司（内宮）

所役の関係で、太玉串行事等の様子が分からなかったのが残念であったが、多くの奉仕者と交流する事が出来、充実した遷宮奉仕であった。

辛櫃奉昇奉仕を拝命した。  
川原祓所にて、五色幣の前にて祓詞奏上後、修祓が奉仕され御料辛櫃・御装束神宝辛櫃・黒田清子臨時神宮祭主・神宮大宮司・神宮小宮司・禰宜・禰宜代（遷宮の時に臨時の役職）・権禰宜・宮掌・宮掌補以下祭員と順に祓いを受け、五色幣の前で祝文奏上され、正宮の大床の真下まで辛櫃を奉昇して進み、正宮前に進むと自然と身も心も引き締まり、緊張感のある中での奉仕であった。

楽殿前から奉仕者三人は、先頭から左・右・左と互い違いになり、正宮外玉垣御門前までと、新宮外玉垣御門前から神楽殿前までの奉仕で、遷御の祭典中は、南宿衛屋前にて奉拜であった。他の臨時出仕は、勅使松明・神宮祭主松明・神宮大宮司松明・神宮小宮司松明・祭員松明・式外参列員松明・参列員松明・庭燎奉仕などの所役がありこれらの所役を奉仕した人数は約八十人。  
午後八時に、カケロー（外宮の場合。内宮はカケコー。）と三度鶏鳴が発せられ浄闇の中出御となった。臨時出仕は南宿衛屋前に控えており、中重より奥の祭儀の様子は分からないが、正宮からの、微かな音が聞こえる時に遷宮の一つ一つの歴史を感じた。

今回の遷宮奉仕では辛櫃奉昇、松

明所役を拝命し、また装束は平礼烏

帽子・白雑色・赤単・白括袴・白靴

といった普段では経験することがな

い内容であったし、祭儀以外でも神

宮での習礼などで貴重な経験ができ

た。

所役の関係で、太玉串行事等の様

子が分からなかったのが残念であっ

たが、多くの奉仕者と交流する事が

出来、充実した遷宮奉仕であった。

所役の関係で、太玉串行事等の様

子が分からなかったのが残念であっ

たが、多くの奉仕者と交流する事が

出来、充実した遷宮奉仕であった。

第22回

吉野神社

(勝田郡奈義町)

宮司 高山 命之

こだわりの社

自衛隊のある町で知られている、勝田郡奈義町中島西に鎮座する吉野神社では、社殿の老朽化に伴い平成二十五年一月から改修・改築工事を行っていたが、十月末に工事が完了した。

当社は明治六年村社に列せられ、記念事業として明治八年に本殿・幣殿・拝殿を中島西地区・荒内西地区から浄財を集め造営した。その後拝殿が手狭になり、大正九年に大拝殿を増築した。拝殿は吹き抜けになつており、午前零時からの歳旦祭では氏子・総代は寒さに震えて参列していた。



改築された拝殿

また、秋祭りでは、御神幸のため神輿を拝殿に上げると、地震が起こったように拝殿が横揺れしたり、更に大きな広戸風が吹くと倒壊する危険性も予想されるなど様々な事から、五年前総代長に改築を相談をしたのが始まりである。

しかし当時はリーマンショックの煽りで、世の中が不景気の真只中であつた。そういった事もあり話は頓挫するのではないかと思われたが、両地区長が、先頭に立つてくれたお蔭で、昨年の一月に奉賛会を立上げる事が出来た。

奈義町は過疎化の町であり、老人が多い地区であるにも拘わらず、目標額の達成を図ることが出来たのは、何よりも地区民が一つにまとまったことが大きな要因である。

また、業者選定については、地元業者で行う事を全会一致で決め、(株)奈義森林建築センターに依頼することにした。直ぐに奉賛会の中に建設委員会を立上げ、業者との打ち合わせを頻繁に行った。

今回の改修・改築工事の内容は、以下の通りである。

幣殿は、構造や造りもほぼ同じものとし、拝殿は補強をして木のぬくもりを取り入れ美しく仕上げるように依頼した。

幣殿には祝詞殿と押入れを作ることとした。押し入れは祭の折には、建具を外して、神饌所としても使用できるようにした。

土台は、腐りにくく虫が入りにくい栗の木を使用した。柱は無垢の作州檜を使用し、天井・壁板は杉を使用しそれ以外は全て檜を使用した。

天井は竿天井とし無垢の杉を使用した。壁板は杉の赤を使つて重厚感を出すようにし、両面仕上りの十二ミリ合いじゃくり加工したものを使用し

た。

建具にも同じ杉板を使用し、建具が入つていても、外していても違和感のないようにしており、こだわりを持つて細工をしている。

拝殿は柱と屋根だけを残して全て解体した。柱十二本の内二本を取り換え、新たに八本を無垢の作州檜を使用して柱の数を増やした。また床下に檜の束を三十五本入れて頑丈なものにした。

当初、天井は竿天井で無垢の杉板を張る予定であったが、宮司のこだわりによつて、格天井に変更した。

格天井は、四十五センチ角の赤杉を使用した。この杉板は、当社の境内にあつた枯死した杉である。

両地区の総会で承認を受け、伐採費用も多額の費用となつたが、両地区の費用負担とすることも承認を戴いた。

工事の始まる前に伐採を行い、使える所だけを残して、どこの部材に使うかは検討項目であつた。業者からは建具又は押し入れの中の壁板に使用するかとの意見もあつたが、杉の状態が良い状態であつたことと、格天井に変更になつたため、こちらの杉を使用することにした。結果、杉板の紋様が綺麗に出ていて風格のある格天井となつた。材料が少し残つたこともあり、向拝にも三十センチ角の格天井にすることが出来た。

幣殿・拝殿とも床板を二重張りで施工した。杉板の捨て張り十五ミリを張り、その上に十五ミリの檜の無垢フローリングの本実加工したものを使用した。

拝殿の外側には切目縁を施し、高欄を取り付け



拝殿から幣殿を望む

た。この部分は全て檜を使用して、神社としての重厚さを醸し出している。また、本殿濱床の一部を取替え、高欄を全て新調した。拝殿と幣殿の周りには白石を敷き詰め、社殿の木の色と石の白色とが見事に調和が取れて、より一層社殿が引き立つようになった。

平成十六年の台風により神社の杜がなくなつてしまひ、ここ数年の夏の集中豪雨により境内には池のようになり、溢れた雨水は一般道に流れおちる有様だつた。当然、建物の下にも水が溜まるため、今回の社殿工事と共に、本格的な土木工事を行い、境内回りに排水溝を造つた。

お蔭で、雨の日の後の山からのおびただしい水は排水溝に流れるようになり、境内に溜まることはなくなった。神輿蔵の屋根の葺き替えとトイレの改修も併せて行い、祭具用品も全て新調することが出来た。

出雲大社・伊勢神宮の式年遷宮が行われた年の十一月十日に社殿の竣功奉告祭が出来たことは、氏子にとつても記憶に残る年となつたのではないかと思う。

宮司として氏子の方々の物心両面による協力に感謝申し上げます。

# 神社における更なるインターネットの活用

## 第一回

### ホームページ開設の意義



岡山神社  
権禰宜 久山 信太郎

現在、ホームページを開設している神社も一般的になってきている。そして、web2.0と呼ばれる双方向のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）も徐々に広がりを見せ、神道教化や広報活動に利用され、氏子崇敬者等と神社のつながりがさらに増したという声も聞こえてくる。

そのような現在の状況を踏まえ、私の奉職している岡山神社での経験や、インターネット（以下ネット）使用例などから、神社におけるネットの更なる活用を考え、その効果などを解説していきたい。

一度の記事ですべての分野（ホームページ・ブログ・ツイッター・facebook等）を詳しく説明するのは困難なので、数回の連載記事として掲載していく。

#### ●存在の証である

ホームページが無い神社は、多くの人々の中では存在していないものと捉えられる。少々刺激的な極論かもしれないが、事実、現在ネットを活用している多くの人は、何をする時もまずは「ネット検索」をする。お店や病院を探したり、電車の時刻

を調べたり、結婚相手を見つける人もいるくらいである。

当然ながら、普段神社に参拝する習慣のない人や、遠方から旅行等で訪れる人は、その地域にある神社のことも「検索」する。そして検索しても何も出てこなかった場合、その人々の中ではその地域に「神社は存在しない」、ことになってしまう。

言い換えれば、ホームページは世界中の人々に対する、その神社の存在証明となっているのである。

#### ●複数回の可視性と膨大な情報量

「うちの神社は氏子しか参拝しないし、社報等の紙による媒体で氏子への連絡、教化などを行っているからホームページは必要ない」、という意見もあるだろう。

しかし、社報等は誤って破棄されてしまう可能性もあるし、紙面の都合上情報量に限りがある。

ホームページがあると、誤って破棄されてしまっても、氏子側から能動的に神社が発信する情報を閲覧できるし、そ

の情報量も、紙媒体とは比較にならないほど膨大である。

お祭りの様子等を動画でホームページに掲載すれば、紙媒体よりも圧倒的に臨場感や迫力が伝わる。

#### ●神明奉仕に対する意欲の高揚

ホームページを開設する方法は、①プロの業者に任せる、②この分野に詳しい知人・氏子などに手助けしてもらう、③自分で一から作成する、と大き



岡山神社のホームページ（トップページ）

く三つの方法がある。  
お勧めは先ず③の自分で作ってみて  
難しい所を②の知人や氏子に手  
伝ってもらうである。

①は多額のお金が掛かることもある  
が、③は自分で始めることで知識が蓄  
積され、内容の変更更新等も自分の  
ペースでできるという利点がある。

そしてホームページを自分で作る  
と、「もつといい写真を撮りたい!」  
「もつと多くの人に奉職神社の事を  
知ってもらいたい!」、という神明奉  
仕に対する意欲が高まり、更なる向上  
が期待できるのである。パソコンなど  
が苦手な方は、何やら難しそうと思わ  
れるかもしれないが、どういったこと  
からでも良いので「まず始めてみる!」  
という気持ちになることを期待する。  
今回のテーマは「ブログを書いてみ  
よう!」である。

\*1..旧来は情報の送り手と受け手が  
固定され、送り手から受け手への一方  
的な流れであった状態が、送り手と受  
け手が流動化し、誰もがweb(イン  
ターネット)を通して情報を発信でき  
るように変化したwebの利用状態  
\*2..平成二十四年末のインターネット  
ト利用者数は九、六五二万人、人口普  
及率は七九、五% (総務省調査)

# 新旧御正殿前で

## 二十四名の子供達が参拝

### ―第十九回こども伊勢まいり―

【教化委員会育成部会主催】

八月二十六日〜二十八日にかけて、  
育成部会主催の「こども伊勢まいり」  
が県下から二十四名の小中学生が参加  
し、神職六名も加わり、合計三十名で  
開催された。

初参加の子供もいたが、皆すぐに仲  
良くなり、打ち解けた雰囲気の中バス  
は一路、伊勢へと向かった。当日は天  
候状態が不安定で到着の頃には雨模様  
になってしまった。

伊勢に到着し、まず「せんごう館」  
に入館して学芸員から御神宝作成の過  
程や道具類の説明を受けながら見学を  
行った。

宿泊先の神宮会館では日頃、何気な  
く食べている食べ物がいかに大切であ  
るかを作法と共に学び「食」に感謝す  
る心を培った。

二日目は早朝の澄み切った空気の中、  
外宮そして別宮にも参拝して、一日の



内宮新御正殿前にて

午後からは、おかげ横丁、  
鳥羽水族館を見学した後、  
二見興玉神社に参拝し、  
連泊の神宮会館では神宮  
に参拝した感動を作文に  
した。子供達は、心に残っ  
たこと、思い出になった  
ことなど一様に書き出し  
て色々な作文が出来上  
がった。

最終日となり、この日  
はラジオ体操から始まり、  
朝食を済ませたあと、二  
日間お世話になった神宮  
会館の皆様にお礼の挨拶  
をして、伊勢を出発した。

奈良方面に向かい春日  
大社に参拝。職員から神  
社の案内と説明を受けた  
後、正式参拝を行った。

始まりとなった。続いて宇治橋を渡り、  
内宮の御正殿に参拝した。神楽殿での  
神楽奉納では皆正座して真剣に舞を鑑  
賞した。  
今年には遷宮に向けての数々の行事が  
あるため、御垣内参拝等が行われてい  
なかったが、現在の社殿と新たに作ら  
れた社殿の両方を一度に見て比べるこ  
とができる良い機会に恵まれた。



春日大社/外宮で三つ石を見学する参加者

境内には沢山の鹿がいて、少し怖がる子供もいたが、すぐに馴れて、楽しそうに歓声を上げていた。  
帰りの車中も和気藹々と過ごし、誰一人事故や怪我もなく帰国することができた。

# 特徴ある亀太夫神事と出雲国造の舞を見学

熊野大社(松江市)・鑽火祭さんかまつり/第二回「神社まつり見学」  
(教化委員会広報部会主催)

十月十五日に、一般募集二十三名と広報部員三名、教化委員長の合計二十七名で、第二回「神社まつり見学」が行われた。

今回は新見市船川八幡宮の「土下座まつり見学」であったが、参加者には好評を博し、是非次回も開催して欲しいとの要望に応え、今回は岡山を飛び出し島根県東出雲方面への旅となった。まず一行が向かったのは、出雲の国一宮で、松江市八雲町熊野に鎮座する熊野大社である。この神社は火の発祥の神社と言われ、「鑽火祭さんかまつり」という珍しい祭りが斎行されている。

それは、出雲大社の「古伝新嘗祭」に使用する「燧白ひきりうす」「燧杵ひきりきね」を、出雲国造に授けるための祭儀で、特徴的なのはその中で行われる「亀太夫神事」とその後の「百番の舞」である。

まず「亀太夫神事」は、出雲大社側が納める大きな長方形の餅に亀太夫という下級神職が、表面が滑らかでないとか、去年より小さいとか難癖をつけ

るといふもので、今回は一通り苦情を言い立てると、今年は御遷宮があったから仕方がないとしてしぼしぼ餅を受



拜殿へ参進する出雲国造と祭員

け取り、めでたく「燧白」「燧杵」を渡し終えた。  
次に「百番の舞」は、出雲大社の国造が怜人の奏でる楽と歌に合わせ、両手に持つ杵を回して舞うものであった。国造の両脇には、杵を替える役目の神職が二名控え、一度回す毎に新しいものと取り替えながら、「百番」舞ったと思われる。

今回、神社側の計らいで特別に観覧席が用意され、参加者は厳かに進行する、これらの珍しい神事を熱心に見つめていた。  
二時間程度の神事が終わると、出雲の国造も加わった餅投げがあり、参加者は思わぬ福の種の授与に大喜びであった。

午後は、松江市大庭町に鎮座する神魂神社かむすじんじやへ向かった。先に参拝した熊野大社の鑽火祭に奉仕した出雲国



神魂神社本殿の説明を受ける参加者

造が、今度はこの神魂神社にも参拝するということ、神社側の都合により正式参拝は叶わなかったが、現存する最古の大社造りのご本殿などを見学した。

この神社は出雲の国造の大祖である天穂日命あめのほひのみことがこの地に天降つて創建したものと伝えられており、社伝によれば天穂日命の子孫が出雲の国造として二十五代まで本神社に奉仕したという。出雲の国造家は現在の出雲大社の宮司家であるが、現在でも代替わりの時の「神火相続式」並びに「古伝新嘗祭」執行の折には、この神社にも参向するということであった。

また、行き帰りのバスの中では、本

事業の企画者でもある太田浩司教化委員長が、今年五月に齋行された出雲大社の御遷宮での祭員奉仕の体験談や、平成二十五年十月の神宮御遷座の特別奉拝の話を、ユーモアを交えながら詳しく語り、参加者は笑いあり感動ありの、通り一遍でない具体的な説明に終始満足そうであった。

本事業の今後の課題としては、特徴ある祭礼を執行している神社の検索（しかも神職が引率するため平日に行なわれていること）、また神職が説明・案内する事業であることから、多忙な時期での、周到な事前準備の必要性などが挙げられるが、見学後のアンケート集計結果によれば、ほとんどの参加者からその行程・参加費（三千元）・食事・神職の説明対応等に高い評価を得ており、中には「今まであまり神社に興味が無かったが、日本の古い文化の継承に努めている人達がいることを知り、神社を大切に想う心が湧いてきた」という回答まであった。

これらのことから、この「神社まつり見学」は神道教化に非常に有効な事業であると思われるので、今後も鋭意、継続・推進していきたいと考えている。

(広報部会 渡邊真理子)

# 伊勢で全国神社関係者大会開催

十一月二十五日、三重県営サンアリーナ（伊勢市朝熊町鴨谷）に於いて、神宮式年遷宮を記念して全国神社関係者大会が全国から約千三百人が参集して開催された。

当県からは河本庁長を始め役員、支部長、職員合わせて十九名が出席した。

午後一時に開会された第一部の記念式典では、田中恆清神社本庁総長が「遷宮を機に神社関係者が決意新たに神社神道の興隆に努めることを願う」と式辞を述べ、続いて池田厚子神宮祭主から、「遷宮の奉賛を思い、神社関係者は



千木、鯉木で装飾されたステージ



河水久澄を舞う学生

神明に奉仕するよう希望する」との言葉があった。

第二部の清興では、久邇邦昭神社本庁顧問が作曲し、豊英秋元宮内庁式部職業部首席楽長が作舞した神楽舞「河水久澄すいきうじよう」を國学院大学神道文化学部の学生が披露した。

第三部の記念講演では、錢谷眞美ぜにやまみ東京国立博物館館長が「国宝・大神社展と文化の継承」と題して「文化財伝わる技や心を伝承する事が神社の祭祀に繋がって行く」と述べた。

# 天岩戸神社・高千穂神社へ参拝

## 岡山県神社庁春の神社参拝旅行

\*日 時／平成26年3月9日(日)～11日(火)

\*費用／39,800円

\*切 込／平成26年1月20日 申込金1万円を添えて、名鉄観光に申込下さい。

3月 9日 日	岡山各地 <small>貸切バス</small> — 各IC — 下関IC — 下関(昼食) —	食事 ☒ 昼食 夕食
	— 下関IC — 筑紫野IC — 九州国立博物館(国宝 大神社展) — 山鹿温泉(泊) 17:30頃	
3月 10日 月	旅館 — 菊水IC — 松橋IC — 天岩戸神社(正式参拝) —	食事 朝食 昼食 夕食
	— 高千穂峡(昼食、見学) — 高千穂神社(お神楽奉納、参拝) — 筋湯温泉(泊) 17:50頃	
3月 11日 火	旅館 — 九重夢大橋(見学) — 九重IC — 甘木IC — 大刀洗平和記念館(見学)	食事 朝食 昼食 夕食(弁当)
	— 甘木IC — 金の隅IC — 福岡(昼食、お買い物) — 月隈IC — 各IC — 岡山各地(お弁当) 19:30～20:30頃	

特別展

# 国宝大 神社展

Grand Exhibition of Sacred Treasures from Shinto Shrines

平成26年1月15日〔水〕～3月9日〔日〕

午前9時30分～午後5時(入館は4時30分まで)

- ◆会場／九州国立博物館3階特別展示室
- ◆休館日／毎週月曜日
- ◆チケット／通常1,500円を**1,000円(特別料金)**にて岡山県神社庁で取り扱っております。
- ◆販売期間／平成26年1月14日まで

**国宝57作品、重要文化財65作品。九州初公開7割超。空前絶後の神道美術展。**

- 国宝 古事記けんゆしょしゃ 賢瑜書写／大須観音宝生院
- 国宝 北野天神縁起絵巻／北野天満宮
- 国宝 熊野夫須美大神坐像くまのふすみのおおかみざぞう／熊野速玉大社
- 国宝 金銅製龍頭こんどうせいりゅうとう／宗形大社
- 国宝 海獣葡萄鏡かいじゅうぶどうきょう／香取神宮
- 重要文化財 童子形坐像／石清水八幡宮 など

太宰府天満宮横  
**九州国立博物館**  
福岡県太宰府市石坂4-7-2  
<http://www.kyuhaku.jp>  
☎050-5542-8600

# 神職任免

## ▼就任発令の部▲

年月日	鎮座地	神社名	本務職	氏名
25・7・12	岡山市北区一宮	吉備津彦神社	権禰宜	丹原 亜由美
25・7・12	岡山市北区一宮	吉備津彦神社	権禰宜	中島 大秀
25・7・12	高梁市成羽町成羽	八幡神社	権禰宜	渡邊 幸子
25・7・24	小田郡矢掛町上高末	八幡神社	禰宜	中村 稔雄
25・8・6	岡山市北区祇園	龍之口八幡宮	権禰宜	真鍋 泰二郎
25・8・6	赤磐市石上	石上布都魂神社	宮司	物部 明德
25・9・2	倉敷市北畝	福田神社	権禰宜	柚木 千春
25・10・25	津山市一宮	中山神社	宮司	岡本 正弘
25・10・29	岡山市東区邑久郷	幸地山神社	宮司	児仁井 克一
25・10・29	高梁市有漢町有漢	廣峰神社	宮司	中山 正浩

## ▼退任発令の部▲

年月日	鎮座地	神社名	本務職	氏名
25・7・12	高梁市成羽町成羽	八幡神社	権禰宜	馬屋原 誠
25・7・12	美作市田殿	八幡神社	禰宜	東内 隆
25・8・6	赤磐市石上	石上布都魂神社	宮司	物部 忠三郎
25・9・27	瀬戸内市邑久町下山田	八幡宮	禰宜	大脇 健司
25・11・20	岡山市中区東山	玉井宮東照宮	権禰宜	高階 重和

# 名誉宮司

年月日	鎮座地	神社名	氏名
25・11・1	赤磐市石上	石上布都魂神社	物部 忠三郎

# 神職帰幽

年月日	鎮座地	神社名	職名	氏名	現身分	享年
25・9・3	高梁市有漢町有漢	廣峰神社	宮司	中山 正敏	三級	74
25・11・16	美作市後山	後山神社	権禰宜	井上 四男	三級	95

# 神社庁辞令

四月一日

関係者大会企画委員会副委員長を委嘱する

牧 博嗣

十一月一日

関係者大会企画委員会委員を委嘱する

六月二十五日

岡山県神社庁監事を委嘱する

西辻 嘉昭

十月十八日

関係者大会企画委員会副委員長を委嘱する

中島 博

関係者大会企画委員会委員を委嘱する

藤山 知之進

佐々木 講治

戸部 廣徳

岡部 典雄

伏見 正

太田 浩司

十一月二十日

岡山県神社庁協議員会議長に選任する

長江 俊忠

岡山県神社庁協議員会議長に選任する

春名 明

# 庁務日誌抄

自 平成25年7月1日

至 平成25年11月30日

## 9月

10日	全国神社総代会大会（於：松山）
11日	教化委員会総会
12日	神青協祭式研修会
13日	支部事務担当者説明会
17日	龍笛教室／神青協役員会／事業部会
18日	総代会評議員会／研修企画室会議
19日	祭儀部会（大麻頒布始奉告祭習礼） 雅楽部会（大麻頒布始奉告祭習礼）
24日	神政連代議員会
26日	女子神職会三役会／氏青総会（羽黒神社）
27日	神宮大麻暦頒布始奉告祭 神宮大麻頒布推進会議／神宮奉賛部会
30日	伊勢神宮式年遷宮奉賛会岡山県本部関係者 慰労会

## 7月

1日	月次祭
2日	正副庁長会／祭祀舞部会
3日	神青協三役会
4日	龍笛教室／祭祀委総会
5日	二級伝達式
12日	ありむら治子ミニ集会
19日	庁報封入作業
22日	女子神職会役員会／女子神職会研修会 神青協広報部会
24日	雅楽部会／二級伝達式
26日	龍笛教室
29日	祭儀部会
30日	特殊神事部会／龍笛教室／神青協役員会 神青協発送作業

## 10月

1日	月次祭／龍笛教室／広報部会
7日	龍笛教室
8日	祭祀舞部会／財務委員会
10日	総務委員会
22日	広報部会
23日	世界連邦岡山県宗教者大会（岡山カトリック 教会）
24日	雅楽部会
28日	神政連役員会
29日	役員会／身分選考表彰委員会
30日	中国地区神社庁職員研修（広島県）
31日	中国地区神社庁職員研修（広島県）

## 8月

1日	月次祭
2日	お白石持ち行事 第1班
5日	龍笛教室
7日	監査会／岡山八幡会役員会
8日	祭祀舞部会
9日	育成部会
12日	お白石持ち行事 第2班
16日	神政連監査会／こども伊勢まいり引率者会議
19日	神政連監査会／神政連役員会
21日	教化委員会役員会／広報部会
22日	特殊神事部会／役員会
23日	総代会監査会／総代会役員会／雅楽部会
25日	お白石持ち行事 第3班
26日	こども伊勢まいり（第1日目）
27日	こども伊勢まいり（第2日目）
28日	こども伊勢まいり（第3日目）／龍笛教室 岡山八幡会総会
29日	祭儀部会
30日	龍笛教室
31日	お白石持ち行事 第4班

## 11月

1日	月次祭
5日	祭祀舞部会／神青協三役会／神青協発送作業 財務委員会
6日	祭儀部会／龍笛教室
8日	特殊神事部会
11日	事業部会
13日	龍笛教室
20日	臨時協議員会／神社関係者大会企画委員会
21日	女子神職会役員会／神宮奉賛部会
25日	神青協大麻頒布啓発活動準備
27日	新穀感謝祭団体参拝（第1日目）
28日	新穀感謝祭団体参拝（第2日目）
29日	新穀感謝祭団体参拝（第3日目）／雅楽部会

## 9月

2日	月次祭／役員会
3日	祭祀舞部会
4日	龍笛教室
9日	女子神職会会報打ち合わせ会／育成部会

# 神宮大麻頒布始祭

九月六日、全国の神社庁長を始めとする関係者が神宮に参集し、内宮神楽殿に於いて神宮大麻曆頒布始祭が斎行され、神宮大宮司から北白川道久神社本庁統理が大麻を拝戴した。

神宮会館に会場を移しての大麻頒布推進会議において、当県からは百射山神社宮司平田芳樹氏が表彰の榮譽に浴した。



# 開催予告

## 造営部長が語る家庭祭祀の意義

### 教化委員会主催「巡回神道講演会」のご案内

標記の講演会を左記の通り開催致しますので、開催地区の皆様方はもとより、多くの方々のご参加をお待ちしております。

尚、会場や日時の詳細につきましては、開催地区の本務神職、地区外の支部長宛に、追ってご案内させて頂きましますのでご了承願います。

記

平成二十五年度「巡回神道講演会」

○日程 平成二十六年三月六日(木) 午後

七日(金) 午前・午後

○開催地区 備中地区の三会場(倉敷都窪支部・吉備支部・玉

島浅口支部での開催を予定)

○聴講 無料

○対象 主として一般の方々 神職・総代も聴講可能

○講師 神宮司廳 造営部長・神宮式年遷宮庁参事

奥西道浩先生(岡山県出身)

○内容 長年「神宮」にご奉仕された奥西先生に、造営部長として携わった第六十二回式年遷宮の話や、家庭祭祀の意義についてお話をさせていただきます。

# 平成二十五年神宮大麻頒布大宮司表彰

神宮大麻頒布優良支部			
玉島支部			
新見支部			
神宮大麻特別頒布優良奉仕者			
神職	吉備支部	百射山神社宮司	平田 芳樹
神宮大麻頒布優良奉仕者			
神職	玉野支部	宇野八幡宮宮司	吉野 博人
	児島支部	天神社宮司	田中 澄義
	赤磐支部	熊野神社宮司	佐藤 武文
	浅口支部	真止戸山神社宮司	中山 立夫
	高梁支部	天神社宮司	柴床 博仁
		御前神社宮司	渡邊 和民
	川上支部	穴門山神社宮司	迫本 光章
	新見支部	國主神社宮司	石田 憲治
		岩山神社宮司	田本 景忠
	久米支部	諏訪神社宮司	磯山 賦三
神職以外	倉敷支部	足高神社責任役員	中桐 保
	矢掛美星支部	八幡神社責任役員	竹井 舜治
	吉備支部	總社総代	西山 英雄
	高梁支部	鈴岳神社責任役員	田口 正夫
	英田支部	上山神社責任役員	小林 博巳

# あとがき

◆今年度から広報部長を拝命致しました木山と申します。神社庁唯一の広報紙であるこの『庁報』が、皆様方にとりまして、より有意義なものであるよう勤めて参りたいと思っております。何卒よろしくお願いたします。

◆平成二十五年は神宮、出雲大社の御

遷宮が行われまして、神社界が大変注目された年になりました。この二つの出来事は今の時代を生きる人たちに、何かしら心の抛り所を感じさせたのではないかと思えます。今後は、我々神職も背筋を伸ばし、より一層、神明奉仕に励んでまいりたいものです。

広報部長 木山